

第1章 新学習指導要領全面実施に伴う教員採用選考試験対策

—論理的思考力（ロジカルシンキング）とワンフレーズ作戦で即戦力を—

第1節 教育進化のための改革ビジョン

令和4年2月25日、文部科学省より、初等中等教育段階の教育政策の改革方針を示すものとして、「教育進化のための改革ビジョン（以下、ビジョンと呼ぶ）」について、以下のとおり、公表されました。このビジョンは、令和4年度（令和5年度採用）教員採用選考試験対策の**重要ポイント**です。

（1） 背景

新型コロナウイルス感染症を契機として、様々な生活様式が変わり、また、デジタル化が急速に進む中、初等中等教育段階の教育政策について、「令和の日本型学校教育」の具体的な進め方等、教育進化のための改革方針を示すものです。

（2） 教育進化のための改革ビジョン

現在進行中（一人一台端末の実現、小学校35人学級の計画的整備、教員免許制度の見直し）



新型コロナウイルス感染症を契機として

- ・デジタルが持つ学びにおける可能性の提示、学びの在り方の変容
- ・学校の持つ福祉的機能や存在意義、リアルな体験の持つ価値の再認識

（3） 2つの基本理念と4つの柱

○2つの基本理念

- ・誰一人取り残さず個々の可能性を最大限に引き出す教育
- ・**教職員が安心して本務に集中**できる環境
～「令和の日本型学校教育」答申内容の具体化～

○4つの柱

- ①「リアル」×「デジタル」の最適な組合せによる価値創造的な学びの推進
- ②これまでの学校では十分な教育や支援が行き届かない子供への教育機会の保障
- ③地域の絆を深め共生社会を実現するための学校・家庭・地域の連携強化
- ④教職員が安心して本務に集中できる環境整備

（4） 今後の施策の方向性

同一年齢で同一内容を学習することを前提とした教育の在り方にとらわれず、これまでの日本型学校教育の優れた蓄積も生かして、**個々に最適な学びを提供**するとともに、地域や企業とも連携し、**学校内外での豊かな体験機会を確保**するため、以下の施策に重点を置いて検討。

○個別最適な学びと協働的な学びの日常化

- ・全ての子供に対する、**幼児期からの学びや生活の基盤を育む質の高い教育**の提供
- ・**デジタル教科書**等を活用した学びの充実
- ・**授業時数の弾力化**や、**学年を超えた学び**の検証・開発（研究開発学校、その他の特例制度も活用）

○特別な指導や支援が必要な子供への学びの場の提供

- ・特別なニーズのある子供（障害、不登校、特異な才能、日本語指導等）やへき地の子供を対象とした**オンライン等を活用した教育・支援**の充実
- ・**特例校の設置促進**などによる、通常の学校だけでは十分な教育、支援が届かない子供への学びの場の確保
- ・学校内における個々のニーズに応じた**取り出し指導など柔軟な指導**の実施（障害、特異な才能、学習の遅れ、日本語指導等）

○全ての生徒の能力を伸長する高校教育の提供

- ・発達障害や不登校経験者など**多様な高校生への支援**と通信制高校の質保証
- ・普通科改革等による**地域・大学・企業等と連携した探究・STEAM教育**、デジタル人材など**専門高校と産業界が一体となった人材育成**
- ・**対面指導と遠隔・オンライン指導**の最適な組み合わせ

○質の高い教職員集団の形成

- ・**免許制度改革や勤務形態の柔軟化**などを通じた、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成
- ・教職課程の見直し、教員養成大学・教職大学院の機能強化・高度化
- ・教員勤務実態調査や35人学級の効果検証を踏まえ、**給与・処遇、多様な専門人材・支援スタッフを含めた教職員の配置**の在り方の検討

○地域や企業の力を巻き込んだ学校運営や「リアルな体験」機会の充実

- ・**全ての学校でのコミュニティ・スクールの導入を加速**（重点期間：令和4～6年度）し、地域に開かれた学校運営の実現と防災活動等での**学校・地域の連携強化**
- ・**地域や企業と学校が連携した形での学習支援や、起業家との触れ合い、豊かな体験機会の提供**
- ・地域や企業と連携し**全ての子供に学校内外での体験活動の定着**（異年齢集団での地域活動、職業体験、ボランティア、自然・文化芸術体験、読書等）や**課題を抱える子供たちを対象とした体験活動の充実**
➡**経済界との直接対話により強力に推進**

○教員研修の高度化、働き方改革の実効性を高める観点からの環境整備

- ・デジタル技術の活用を含めた**教員研修の更なる高度化**や**教師のICT活用技術の向上**
- ・校務の情報化をはじめとする学校における**働き方改革**を具体化する抜本的方策を検討
➡**学校DX推進本部を設置し強力に推進**（※本部長：文部科学大臣）

※上記の取組と連動して、教育と社会の接続の多様化・柔軟化を推進する観点から、大学の機能強化、学びの支援、リカレント教育の推進についても教育未来創造会議において検討

「教育進化のための改革ビジョン」令和4年2月25日 文部科学省ホームページより、引用
[文科省「教育進化のための改革ビジョン」を公表～2つの基本理念と4つの柱を示す | KKS Web:教育家庭新聞ニュース | 教育家庭新聞社 \(kknews.co.jp\)](#)

文部科学省「教育進化のための改革ビジョン」をどのように取り組みますか。校種・教科に基づき、具体的に述べてください。

◎教職教養

◎専門教養

◎論作文

◎個人面接

◎集団討論

◎集団面接

◎模擬授業

2 新学習指導要領改訂の基本方針

2016（平成28）年12月21日の中央教育審議会答申（幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）：文部科学省

mext.go.jp)を踏まえた新学習指導要領は、改訂の基本方針を「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すとし、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むために「何のために学ぶのか」という各教科等を学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していくことができるようにするため、全ての教科等の目標及び内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理した（総則、P.3）。さらに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進及び各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進を両輪とした教育改革が強く示されています。このほか、言語能力の確実な育成、理数教育の充実、伝統や文化に関する教育の充実、体験活動の充実、外国語教育の充実を図ると示されています。

1 改訂の基本的な考え方

2 知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」

3 学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立

4 教科・科目構成の見直し

5 教育内容の主な改善事項

- ①言語能力の確実な育成 ②理数教育の充実 ③伝統や文化に関する教育の充実 ④道徳教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥外国語教育の充実 ⑦職業教育の充実 ⑧その他の重要事項

3 「児童生徒の学習評価の在り方について」

2019（平成31）年1月21日の中央教育審議会答申「児童生徒の学習評価の在り方について」（中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」：文部科学省

mext.go.jp)の基本的な考え方が示され、カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価などが言及されています。つまり、これからの教員採用選考試験対策は、小学校は2020（令和2）年4月1日から、中学校は2021（令和3）年4月1日から、全面実施されていることを踏まえた対策へと変更しなければならないものと考えます。

4 中央教育審議会答申（令和3年1月26日）

2021（令和3）年1月26日の中央教育審議会答申（「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中教審第228号）【令和3年4月22日更新】：文部科学省

mext.go.jp)では、すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを一体とした令和の日本型学校教育が提起されたことにより、新たな教員採用選考試験対策においては、「生徒が学習や人生において『見方・考え方』を自在に働かせることができるようにすることこそ、教師の専門性が発揮されることが求められる」（総則P4）を踏まえた「実践的な指導力」が求められます。そのために、「全ての教科等の目標や内容を『知識及び技能』、『思考力、判断力、表現力等』、『学びに向かう力、人間性等』の三つの柱で再整理した」（総則P3）と、（2）育成を目指す資質・能力の明確化が提起されていることを踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業改善及びカリキュラム・マネジメントを両輪とした新たな教育活動へと全面実施されています。従って、新たな「学び続ける教師」が最優先のキーワードとして示されています。

答申では、Society5・0、STEAM教育、GIGAスクール構想、学校現場の働き方改革、教育振興基本計画、学習指導要領など、今後の教育の在り方などが答申で述べられています。また、審議の過程において、新型コロナウイルス感染症による学校の長期休業が行われた「総論」2において、学校長期休業で明確になった学校の役割として「(1) 学習機会と学力の保障 (2) 全人的な発達・成長の保障 (3) 身体的、精神的な健康の保障（安全・安心につながるができる居場所・セーフティーネット）」の3つを挙げています。これは論作文のテーマや面接での質問項目などになり得る重要な内容です。それらを

踏まえて、「教育振興基本計画の理念の継承」「学校における働き方改革の推進」「GIGA スクール構想の実現」「新学習指導要領の着実な実施」により、課題を解決し、「必要な改革を躊躇なく進める」ことで、**従来の日本型学校教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」を実現する**としています。

令和の日本型学校教育を支える教員採用選考試験対策は、近年大きな転換が図られています。つまり、人間性・専門性ともに成長し続ける教師を求める自治体が、独自の人物評価や人財育成（茨城県）の観点から採用基準の転換が見られます。新学習指導要領全面実施に伴う新しい観点・要素が加えられた教員採用選考試験対策が進められていることを理解しましょう。

教員採用選考試験は、公立、私学の違いや各自治体の教科、校種などによって、状況は異なりますが今も狭き門です。であるからこそ、計画的・意図的に学習を進めることによって、「合格」を勝ち取ることができます。「合格」を勝ち取るまでの道のりは、受験者自らが教職への決意と覚悟をもって楽しく笑顔で、子どもたちのためにと、「主体的に取り組む学習者」に成長して、実現されます。

教員採用選考試験は「学校ボランティア体験」と「願書」作成から始まっています。

改めて、すべての子どもたちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体とした令和の日本型学校教育が提起されたことにより、新たな教員採用選考試験対策が求められていることを再確認しましょう。

本テキストの魅力は、まず、最初に全体像を学び、なぜ教師像が必要なのか、授業像・学級像を学ぶのを見極め、受験者一人一人の課題解決の道筋を見極めるところにあります。

第一に、1次教員採用選考試験における筆記試験を攻略するために、「学習計画」立案を重視しています。PDCAを実践し主体的な見通しと振り返りを行い、修正できる力を育みます。

第二に、2次教員採用選考試験における即戦力（実践的指導力）を育成するために、「論作文、個人面接・場面指導、集団面接・集団討論、模擬授業を一体とした学び」を重視しています。科担任として、学級担任として、チーム学校の一員として、結論から分かりやすく策を述べる力を育みます。

これらの学びを通して、学生の皆さん一人一人が、自分自身の願いをもとに学習計画を立案し実践し修正して即戦力を磨き上げていくことによって、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業改善の考え方を理解できるようになります。「子どもたちを真ん中におく」という教育の本質に触れることができることでしょう。このことを、鈴木秀幸（教育評価総合研究所代表理事）は、教育新聞「深い学び入門」の中で、「これまでの『学習から評価へ』という流れから、これからは『評価から学習へ』という評価の在り方が学習に影響する『ウオッシュバック効果（washback effect）、逆向き設計（backward design）』の考え方が示されている」と述べています。参考にしてください。

（2021年10月11日 [深い学び入門](#) [鈴木秀幸](#) 教育評価総合研究所代表理事）

[鈴木秀幸教育新聞 \(kyobun.co.jp\)](http://kyobun.co.jp)

「私の夢、教師への道」

学部

学科

氏名

--

第2節 教師目線で育む未来の教師像

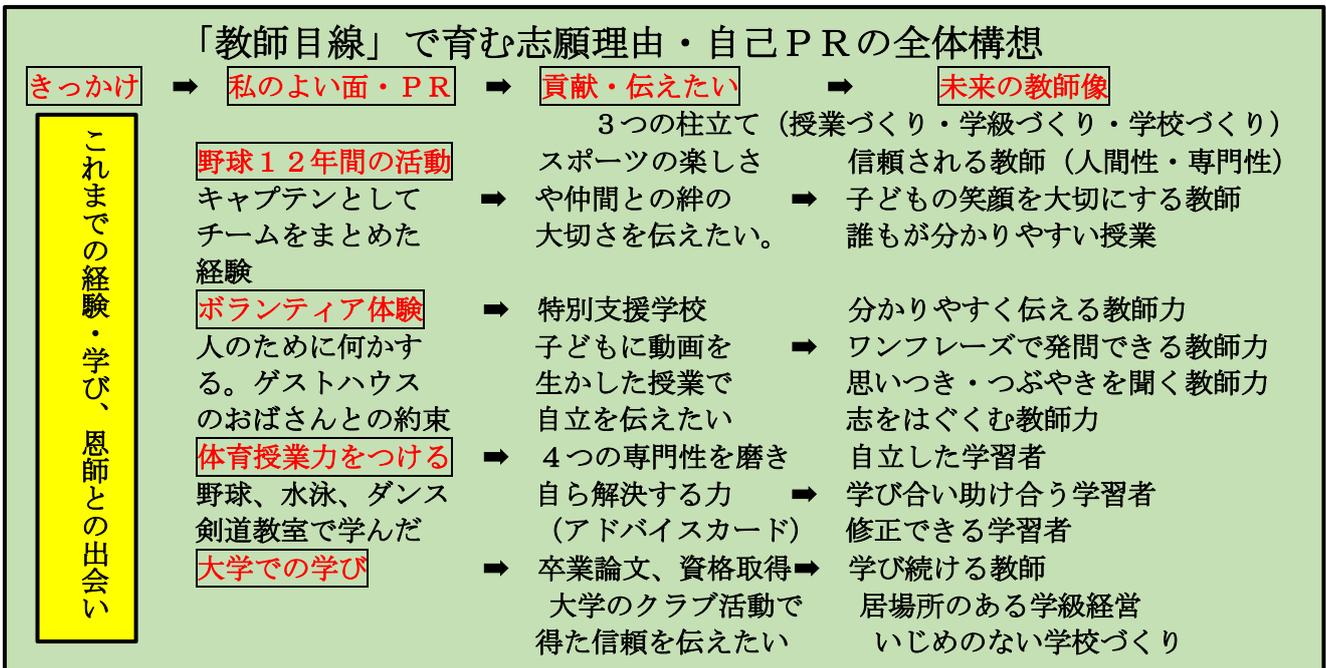
—「〇〇さんの私」と「〇〇先生の私」を創ろう—

1 「未来の教師像」を要とした「志願理由」と「自己PR」の書き方

(1) 教師目線

教育現場が求める「即戦力（実践的指導力）」は、さまざまな教育活動の場面において、教師としてどのように対処すればよいのか、どう指導すればよいのか。その判断力や決断力、対応力を育てなければなりません。その資質・能力を見極める意味で、各自治体は教員試験と呼ばず「選考」という言葉を入れています。受験者は、説明会（オンライン含む）後、願書提出へと進みます。疎かにしてならないことは、その願書には、教師像・学級像・学校像・生徒像をどのように形成しているのか、人物評価のための「志願理由」や「自己PR」の欄を設けている自治体があります。つまり、筆記試験だけではありません。人物評価を行うために、さらに、論作文や個人面接・集団討論、場面指導や模擬授業を通して、教師としての力量形成、人間性・専門性を見極めようとしています。

それでは、「教師目線」によって、志願理由・自己PRへと構想する流れを考えてみましょう。



(2) 未来の教師像 —「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す教師—

教員採用選考試験は、将来の教師生活を貫く「ワンフレーズ（**どういう教師になりたいのか、どういう教育をしたいのか**）」を熱く語る場であると考えましょう。その登竜門が、志願理由と自己PRです。つまり、本テキストは、**分かりやすく伝える**という論理的思考力（ロジカルシンキング）を育成するためのプログラムを提供します。

近年、「志願理由・志望動機」と「自己PR」の2大テーマに正対し教師像を形成することが、合格への近道と言われます。受験生の約80%が述べる「恩師とのエピソード、あこがれ」は数年前のきっかけです。面接官は、大学4年間で何を学び、その学びを教師としてどのように貢献できる人材であるのかを知りたいのです。関連質問は決して圧迫面接ではありません。大学4年間で培ってきた「**教師としての魅力、よさ**」を児童生徒に、受験自治体の教育に貢献できるか、「教師としての未来力」があるかを問います。面接官は、「県民・市民」の付託を受けて、未来の「児童生徒・保護者・地域・学校」の教育を支える人材か否かを判断します。自治体が求める教師像、「数学科教師だったら」「私が学級担任だったら」「その学校の教師だったら」という**三つの柱立て「授業づくり・学級づくり・チーム学校づくり」**ごとに**論例策**という「引出し」をつくること、具体的に「策」を述べ教育公務員として貢献できる教師を目指しますと強く「志願理由・志望動機」と「自己PR」の中で述べましょう。

2 「志願理由書」と「自己PR書」(エントリーシート)の書き方

—教員採用選考試験は「願書」作成で始まり教師像で解決する—

教員採用選考試験の「志願理由書」と「自己PR書」(P8参照)は、大学4年間含めてこれまでの経験や学びを振り返り、教師という視点に立った自分自身の骨太な教育理念・教育観を、面接官を通して「児童生徒・保護者・地域・学校」に分かりやすく伝える場と考えましょう。

具体的に分かりやすく伝えるためには、論作文や個人面接・集団討論・集団面接などに共通する「3つの柱立て」に基づいて考えていきましょう。これまでの2年間の「私」の人生を振り返るとともにこれからの約40年、教師としての「私」が、どのような教師を目指すかを考える機会にしましょう。

まずは、受験自治体の日程、1次・2次教員採用選考試験内容、自治体が求める教師像を精査し、複数の自治体を選択します。次に、各自自治体の「教員採用選考試験説明会(オンライン)」に参加し出願します。これまで学んできた成果を発揮するためには、複数の自治体の受験を推奨します。そして、受験自治体が求める教育像・教師像に結びつくワンフレーズを「志願理由書」と「自己PR書」に記載していきましょう。2次試験などの個人面接につながる内容にしましょう。可能であれば、言い換える習慣を身に付けましょう。さらに、面接官が質問する内容を想定した問答をノートに整理しましょう。

(1)「志願理由・自己PR」と「面接・論作文」をつなぐワンフレーズ(教師像)

願書に「志願理由」と「自己PR」を書く受験自治体があります。この場合、教員採用選考試験の個人面接や集団討論などの内容と願書の内容と関係を深めた内容にすることが重要ポイントです。これからの教師生活を貫く「ワンフレーズ(どのような教育をしたいのか)」を面接官に対し、授業づくり、学級づくり、チーム学校づくりの3本柱の視点から、熱く語り伝える場であると考えましょう。特に、**専門教養(教職課程の学びが重要)**の視点からも、分かりやすい授業づくりが第一優先です。そのためには、大学1年次から学校ボランティア体験などで学ぶとともに学習指導案作成・模擬授業体験を通して、分かりやすい授業づくりをめざしていることを志願理由や自己PRとして述べる方策が最適です。「志願理由」と「自己PR」を面接に生かしていく内容を下記に紹介します。

(2) 願書の「未来の教師像」と「志願理由・自己PR」「面接・論作文」とのつながり

個人面接の定番である、「志願理由」、「自己PR」の次が「教師像」です。この「教師像」は論作文、集団討論の重要テーマです。その観点から、取り組んでみましょう。

面接官：どのような教師を目指していますか。1分以内で述べてください。

留意点：受験者は、面接官の質問を復唱しながら、整理します。

受験者：私が目指す教師像は、2つあります。1つ目は・・・、2つ目は・・・です。

子どもたちに授業の楽しさを伝え、笑顔溢れる学級づくりを行ない、かけがえのない生命を大切にできる教育を実現できるよう、思いやり・優しさを育む教師を目指していきます。

以上です。

と答えます。そして、面接官の質問を待ちます。

所謂、結論を先に述べるという「**キャッチボール型面接**」を目指していきます。そのためには、日頃から、子どもたちを真ん中においた教師の3つの目線(授業、学級、チーム学校の引出し)で、結論から簡潔に話す習慣を身に付けましょう。**長い説明から入る癖を持つ8割の受験生の皆さん**、面接官の「児童生徒に分かりやすく伝える力を持っているか、考えさせる発問が出来る教師であるか」という評価項目でも低くなります。実は、教師は「話す力」を生かして、児童生徒が思いつきやつぶやきを発することができるよう発問しその声を拾い上げていく**コーディネーターの役割を果たす「聞く力」**が、**児童生徒に「考えるきっかけ(思いつき・つぶやき)」を創ります**。「聞き上手」を目指そう。

(3) 「志願理由書」と「自己PR書」の模範例

それでは、第2次選考「自己アピール票」の事例を紹介します。受験自治体により、様式や質問内容が異なります。重要ポイントは、面接官は、第1質問、第2質問、関連質問と3つの質問を行う場合があります。簡潔にワンフレーズで述べることができるよう、必ず、想定問答集を作成してください。また、受験自治体によりますが、下記のとおり、事前準備をしっかりと行ってください。

例1 教員を志す理由・動機について、校種・教科等を踏まえて書いてください。

小学校教員を目指す動機は2つあります。1つ目は、小学校6年時の学芸会を通して、何事も一生懸命取り組むことの大切さを言葉と行動で教えてくださった担任の先生の姿に憧れたからです。2つ目は、東日本震災を経て学んだ「命の大切さ」を伝えたいからです。よって、私は人格形成の基礎をつくる小学校教育に携わり、誰もが自分を愛すること・他者を尊重することの大切さと笑顔が与える力の無限大さを伝え、自立した学習者の育成に貢献できる教員を目指します。

面接官より：なぜ、教師を目指しましたか。1分でお答えください。

例2 ○○県で勤務を希望する動機・理由を具体的に記載してください。

○○県で勤務を希望する理由は、2つあります。1つ目は、誇りある郷土みやぎの復興・再建を支える力になりたいからです。私は、東日本大震災後、中学校3年間ご指導を頂いた学年主任の先生から「あなたたちは、生かされたものの使命を考えてこれから生きていかなければならない」と言われ、自分の生涯を考える言葉と受け止め、宮城県で公僕として貢献したいという希望を持っています。2つ目は、「夢や志の実現に向けて自ら学び、自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む」という宮城県教育目標に共感しているからです。この目標の具現化に寄与できるよう、自己研鑽に励んでいきます。

面接官より：なぜ、○○県の教員を目指したのか。1分でお答えください。

例3 教員を志す上で、今現在努力していること、心掛けていることを挙げ、学校現場どのように生かしていきたいか書いてください。

現在、私が努力していることは、大学の卒業論文において、自身の伝え方を見直し、他者と円滑にコミュニケーションを図るための「伝え方」について学んでいることです。学校現場では、児童や保護者と係る時に傾聴する姿勢を持ち非言語表現を用い、話し方を工夫して分かりやすく伝えることに生かしていきます。また、心がけていることは、一週間・一ヶ月単位で生活を見通して過ごし、日々振り返りを行うことです。これを学校現場に入り多忙な教員生活になっても、教材研究等の時間を多くつくれるよう生かしていきます。

面接官より：あなたのよさ、努力していること、自己PR1分をお願いします。

例4 今を生きる子どもたちと関わるに当たり、教師としてどんなことを大切にしていきたいですか。

私は、教師として3つのことを大切にしていきます。1つ目は、これからの時代に求められる授業力を向上させることです。なぜならば、未来の創り手である児童が解のない時代を生きる上で、知識・技能の定着はもとより、どんな課題でも主体的に解決していく力が必要であるからです。2つ目は、教育相談力の向上です。なぜなら、いじめや不登校等を解決するためには、児童の声に耳を傾けられる教育相談力を身に付け、児童理解に努める必要があるからです。3つ目は、「勇気をもって挑戦することの大切さ」「失敗は恥ずかしい事ではなく、成長のきっかけになる」ことを伝えていきます。なぜなら、サッカーのGKでの失敗・成功体験を踏まえて、授業や学級づくりでは、様々な課題に挑戦できる場をつくります。

面接官より：あなたが教師としてどんなことを大切にしたいか。1分で述べてください。

例5 教師になる上で、あなたの強み、弱みはなんですか。また、あなたの強みを学校現場でどのように生かしていきたいか、その抱負を記述してください。

教師になる上で、私の強みは、笑顔という大きな花です。弱みは細かいところを気にしてしまうことです。しかし、細部への配慮は怠らず、大事なことは何かを常に考え行動するようにしています。抱負として、学校現場では笑顔でいることを忘れず、分かる・できる授業づくり、笑顔溢れ挑戦できる学級づくりに生かすとともに、チーム学校の一員として貢献していきます。

面接官より：あなたの強み、弱みをどのように生かしていきますか。1分で述べなさい。

例6 変化の著しい今の時代に、児童・生徒と向き合う上で最も大切だと思っていることを、その理由も添えて記入してください。

私は、新任教師として「学び続ける姿勢」が最も大事だと考えます。なぜなら、児童に求められる資質・能力を育成するために、変化の著しい今の時代だからこそ、教師は常に新しい情報を更新し学習指導や生徒指導に活かす必要があると考えるからです。よって、私は教材研究や研修会等に積極的に取り組み、常に成長し続ける教師を目指します。

面接官より：教師として、子どもたちとどう向き合うか。心構えを教えてください。

例7 人物に関する証明書の書き方

受験自治体より、人物証明書を求められる場合があります。参考にしてください。

観察区分	記入事項
1 性格	私の人柄は、穏やかに、素直でどんな人にも公平に声をかけることができるところがよい面であると思います。柔道で中高大学10年間の寮生活を通して、穏やかに公平・公正に声をかけたり意見を受け入れたりすることができるようになりました。このよさを生かして 信頼される教師を目指していきます。
2 指導力	大学では教職と柔道を両立して学んできました。教師としての指導力は教職では教材研究の方法について学び、柔道では「駄目なものは駄目と言える」厳しさと「生徒のよい所を見つけ伸ばす」温かさの両面を培ってきました。児童生徒が楽しく運動できる体育授業ができるよう、 教材研究に努める教師を目指します。
3 研究心	大学4年間、一度始めたことは最後までやり抜くためには工夫改善しようという研究心を学びました。そのためには継続的に取り組むあきらめない姿勢を培ってきました。生徒のためという研究心を生かして、 授業研究・教材研究に取り組んでいきます。
4 社会性	社会性は 、柔道で培われました。日々の日常的な場面や些細なことでも人の役に立ちたいと思う気持ちと行動力が鍛えられました。児童生徒を真ん中においた教育活動ができる、 公平公正を大事にする教師を目指していきます。
5 長所	長所は、辛い時や悲しい時でも感情的にならず、 「笑顔」で乗り越え他人に接することができる教師を目指していきます。
6 短所	短所は、安心・安全面に必要以上に細かいところまで目が行ってしまい、気になる面がありますが、この面を生かして、 気配り・心配りができる教師をめざして参ります。
教育職員としての適格性	人財である「生徒一人一人が輝く」ことができるように、運動が大好きと思える体育授業や助け合う学級集団を育むため、 自ら学び続ける教師、信頼される教師を目指して教材研究に努め教師としての適格性を育みます。

第3節 即戦力—実践的な指導力—

1 「社会に開かれた教育課程」を実現できる教師

学生の皆さんは、教員採用選考試験対策として、学校現場が求める人物評価とはどのようなものですか。学校現場が求める即戦力、実践的指導力とはどのようなものなのか、どのように努力すればよいのかと質問してくれます。とてもよい質問ですねと褒めます。

(1) 即戦力

学生A：学校現場が求める人物評価、即戦力をどのようにすれば身につくのか教えて欲しい。

教職ア：即戦力への近道は、「教師目線」で見たり聞いたり考えることからですね。どんな教師を目指したいですか？

学生A：まずは分かる授業。次に、生徒との接し方・しかり方が上手にできる教師を目指したい。

教職ア：そのために、どのようなことから始めたらよいと思いますか。具体的に述べてください。生徒に「考えてごらん、本当にそれでいいの？」と問いかけ、生徒の答えに、教師は「そうか、ありがとう」と褒める場面を創り出すような発問、問いかけができる（個人内評価のできる教師）といいですね。

学生A：その場、その場で、すぐ、やっていけるようになりたい。できるところから始めます。

(課題) 学生の皆さん、これまで「学生目線」で過ごしてきました。これからは「教師目線」に変えていくためには、どのように取り組むべきか、具体的に考えてください。

(2) 学校ボランティア体験

学生B：即戦力は、直ぐ身につくものではないと思う。特に、〇〇県を受験しますが求める教師像の中の「教育への使命感、熱意、教育的愛情」はどのように培っていけばよいのでしょうか。

教職ア：まずは、大学1年生から学校ボランティアやインターンシップを体験してみたらどうですか。

学生B：学校ボランティアとして参加する場合、どうしたらいいですか。

教職ア：大学の担当の方に相談してください。また、最寄りの教育委員会に登録する方法や母校の恩師に相談する方法もあります。

(課題) 学生の皆さん、大学1年生から、学校ボランティア体験やインターンシップを体験するためには、どのような方策があるか考えてみましょう。

(3) 授業づくり

教職ア：あなたは、どういう授業を理想と考えていますか。

学生C：子どもたちが「楽しいな」と思える授業を理想と考えます。大学の〇〇先生の、はっと気づかせてくれる授業、私もやってみたい。

教職ア：教師は生徒に伝える言葉、発問が大事と思う。そうだったのかと気づかせる授業が良いと思います。どうしたらいいかと考えさせる発問こそ、つぶやきが増えると思う。どうですか。

(課題) 模擬授業でハッと気付かせるため、考えさせる授業を実現したい。考えてみましょう。

2 即戦力（実践的指導力）育成の手立て

本テキストでは、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す、高いポテンシャルを持った新たな「即戦力（実践的指導力）」を有する人材（茨城県は人財と呼ぶ）であるという「人物評価」が得られるように、脚本家・演技者、役者として、次のプログラムを提供しています。

（1）教育観・教師像の育成

「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業改善という視点から、個人面接、場面指導、模擬授業、集団討論・集団面接、論作文を一体とした教育観・教師像を構築しましょう。それでは、あなたが、面接官として、どのような質問（P89～91 参照）を選択しますか。

（テーマ）あなたは、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業改善について、どのように受け止め、どのように対応していきますか。校種・教科の立場から具体的に述べなさい。

集団討論で行う場合は、「キーワード」を決めてから、「意見を2分でまとめて1分で発表、司会なし。必要性を感じたら、途中から司会を立ててよい」という方法で行ってください（p89 参照）。

（2）面接官の立場になって、次の項目ごとに、質問を考えよう（個人でも可能です）。

項目	学習指導等に関する具体的な面接・論作文などを一体とした質問、論作文のテーマ
個人面接	（例）「見方・考え方」を働かせることについて、どのように考えますか。具体的に述べよ。 ・ ・ ・
場面指導	（例）中学1年の保護者から、スマホばかりで家庭学習ができていないと相談があった。 ・ ・ ・
模擬授業	（例）主体的な学び、対話的な学び、深い学びをどのように取り入れましたか。 ・この単元の年間指導計画の位置づけについて、具体的に述べよ。 ・ ・
集団面接	（例）インクルーシブ教育システムの構築について、具体的に述べよ。 ・ ・ ・
集団討論	（例）本時のめあてを提示するときの発問について、工夫することを具体的に述べよ。 ・ ・ ・
論作文	（例）子どもたちに「確かな学力」を身に付けさせるために、どのように取り組みますか。 ・ ・

論作文では、3つの柱立てである「授業づくり、学級づくり、チーム学校づくり」の3つのステージごとに、「論策案」を通して、具体的に述べましょう。この学びを通して、保健体育科教師として、学級担任として、チーム学校の一員として、どのように考え、どのような対応をするか、想定問答を考えてください。場面指導では、「先ず～、次に～、そして～」の3つのステージで考えましょう。面接官と受験者とのキャッチボール型面接ができてくると人物評価が高くなります。面接官の視点から、即戦力をはぐくむためにはどうしたらよいかを知ることも、本テキストの魅力です。

3 自治体が「求める教師像」

各自治体が求める教師像として、教育者としての使命感、子供に対する深い愛情、教科等に関する専門的知識について、各自治体のホームページに掲載されるとともに教員採用選考試験実施要項として公表されています。教員志望者は、志望する自治体の「求める教員像」を必ず確認しておくことを勧めます。各自治体（全68都道府県・政令市・大阪府豊能地区が公表）の「求める教師像」のキーワードから、理想的な教師が備えた資質・能力とはどのようなものか見てみましょう。

（1）理想的な教師像

①豊かな心を持つ自立した社会人

「豊かな」「豊か」は教員の心に関するものでは、最も多く使われるキーワードで、「人間性豊かで信頼される教師」（栃木県）、「豊かな人間性とコミュニケーション能力を有する教員」（群馬県）、「自立した社会人としての豊かな人間性を持つ人」（三重県）などのようである。

②「使命感」「愛情」「情熱」など

「強い使命感を持ち、児童生徒のために情熱を持って教育実践に取り組む教員」（浜松市）、「児童生徒に愛情を持ち、教育に情熱と使命感を持つ人」（愛知県）、「強い使命感と情熱、高い倫理観、豊かな教育的愛情を持った教員」（岡山県）などと示されている。

③「心身共にたくましく」「健康的な体」など心身の健康を求める自治体も少なくない。「健康で、豊かな人間性を備え、教職に対する使命感と情熱、子供への愛情あふれる人物」が求められている。

④専門性と教養など

「教科等に関する専門的な知識や技能を有し、主体的・対話的で深い学びにより、群馬の子供たちに『たくましく生きる力』を育むことができる」（群馬県）、「教科等の指導力をはじめ、学級経営能力や生徒指導能力、さらに保護者や地域住民との良好な人間関係を築く能力等さまざまな面で高い資質能力や意欲のある教員を」（北九州市）、「創造性と積極性があり、常に向上し続けようとする、心身のたくましさを持っている人」（長野県）、「幅広い教養と高い専門性を持ち、常に学び続ける教師」（岐阜県）などのように、「専門」「教養」「人間関係を築く」「指導力」などが多く示されている。「専門性と教養を備え、実践的な行動力や指導力を発揮できる」などが教員の能力と見られている。

⑤授業力など

新潟市は「授業力・組織マネジメント力・人間力を備え、市民感覚に富んだ教職員」を示しているほか、「カウンセリングマインド」「コミュニケーション能力」「グローバル化」などのワードも見受けられる。このほか、人間性に関するものでは「明朗・明るい」「魅力・信頼」「積極」などが目立った。また、「社会性」「社会人」など「社会」というキーワードも目を引きます。

これらを参考にして、エントリーシートの作成や面接における自己PRを工夫しましょう。

私のエントリーシート作成上の留意点

--

(2) 自治体が求める教師像 (参考例)

〈東京都〉

- (1) 教育に対する熱意と使命感を持つ教師
 - ・子供に対する深い愛情
 - ・教育者としての責任感と誇り
 - ・高い倫理観と社会的常識
- (2) 豊かな人間性と思いやりのある教師
 - ・温かい心、柔軟な発想や思考
 - ・幅広いコミュニケーション能力
- (3) 子供のよさや可能性を引き出し伸ばすことができる教師
 - ・一人一人のよさや可能性を見抜く力
 - ・教科等に関する高い指導力
 - ・自己研さんに励む力
- (4) 組織人としての責任感、協調性を有し、互いに高め合う教師
 - ・より高い目標にチャレンジする意欲
 - ・若手教員を育てる力
 - ・経営参加への意欲

〈千葉県・千葉市 (共通)〉

- ①人間性豊かで、教育愛と使命感に満ちた教員
- ②高い倫理観を持ち、心身共に健康で、明朗、快活な教員
- ③幅広い教養と学習指導の専門性を身に付けた教員
- ④幼児児童生徒の成長と発達を理解し、悩みや思いを受け止め、支援できる教員
- ⑤組織の一員としての責任感と協調性をもち、互いに高め合う教員

〈大阪府〉

- 豊かな人間性、実践的な専門性、開かれた社会性
- ▽何より子供が好きで、子供と共感でき、子供に積極的に心を開いていくことができる人
 - ▽幅広い識見や主体的・自律的に教育活動に当たる姿勢など、専門的知識・技能に裏打ちされた指導力を備えた人
 - ▽保護者や地域の人々と相互連携を深めながら、信頼関係を築き、学校教育を通して家庭や地域に働き掛け、その思いを受け入れていく人

〈横浜市〉

- ▽教育への使命感や情熱を持ち、学び続ける教師
- ▽「チーム学校」の一員として、共に教育を創造する教師
- ▽子供に寄り添い、豊かな成長を支える教師

〈埼玉県〉

- 健康で、明るく、人間性豊かな教師
- 教育に対する情熱と使命感をもつ教師
- 幅広い教養と専門的な知識・技能を備えた教師

〈神奈川県〉

- ①「人格的資質・情熱」は、教職員としての人格的資質や教職への情熱
- ②「課題解決力」は、子どもや社会の変化による課題の把握と解決のために必要な力
- ③「授業力」とは、子どもが自ら取り組む、わかりやすい授業の実践のために必要な力、とし、「課題解決力」と「授業力」を合わせたものを「指導力」と捉えています。

教育新聞 使命感、情熱を持った人物 教科等の専門的知識も重要 教委が求める教員像を探る

2021年11月18日 教員採用試験 より、引用